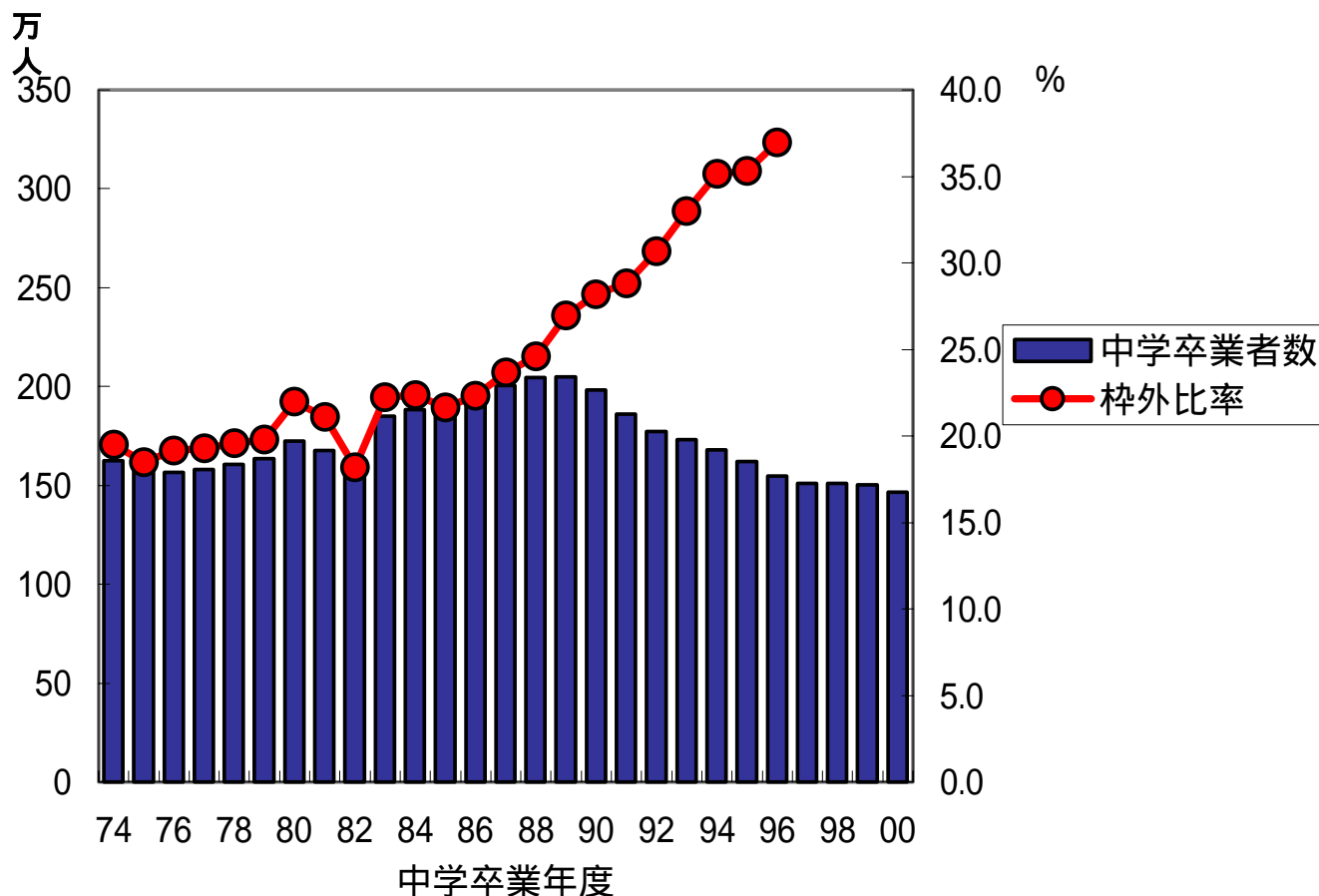


# 現代社会の若者像 ーフリーターとニートー

労働政策研究・研修機構

小杉礼子

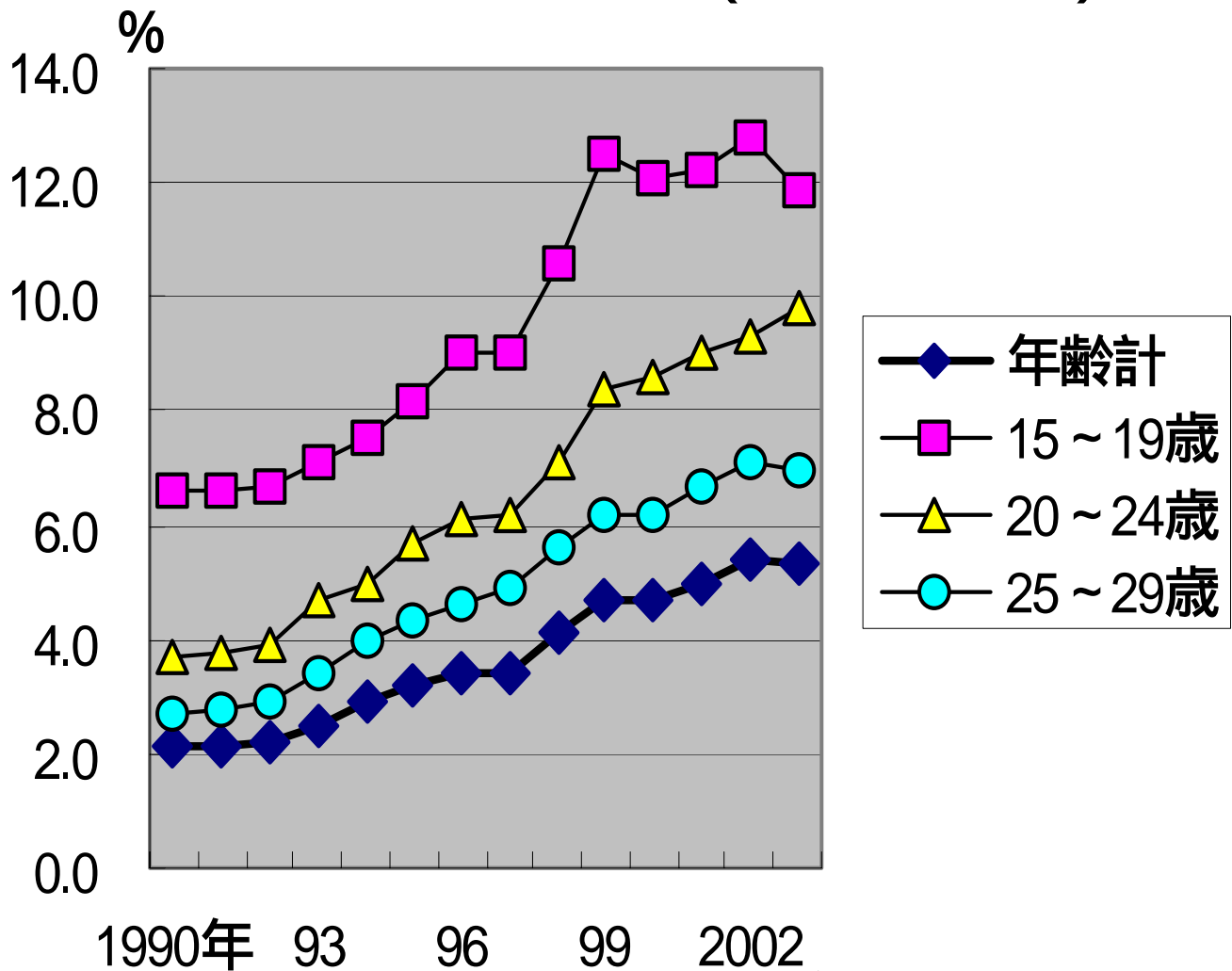
# 新規学卒就職の枠外での離学者



注) 枠外者比率 = { 中学卒業者数 - (同年中卒就職者数 + 3年後高卒就職者  
+ 5年後短大・高専・専門学校卒就職者数 + 7年後大卒就職者数  
+ 7年後大卒進学者数 + 2年後各種学校準看護・看護卒業生数) } / 中学卒業者数  
× 100

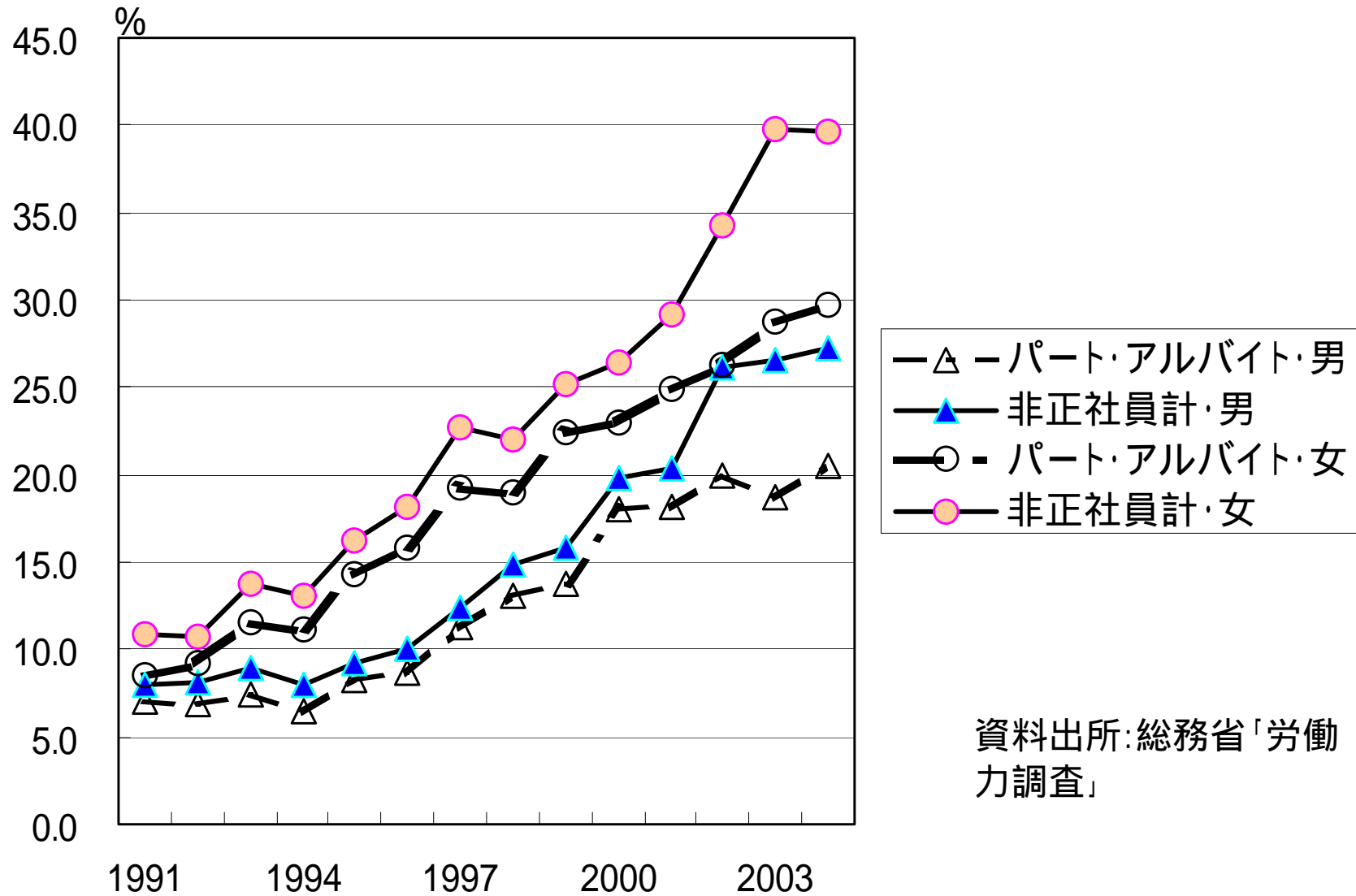
資料出所: 文部省「学校基本調査」

# 失業率の推移(年齢別)

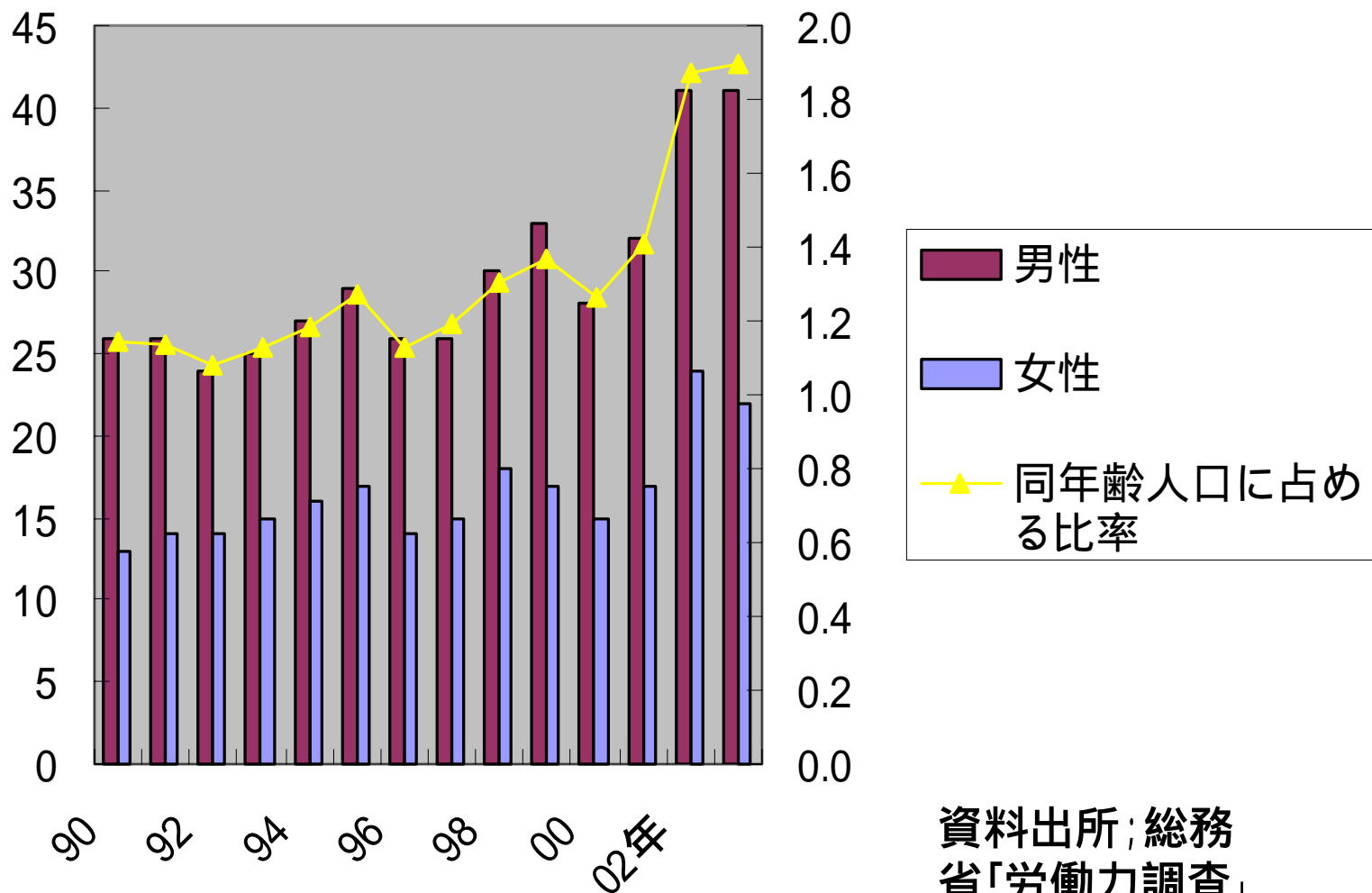


資料出所:総務省「労働力調査」

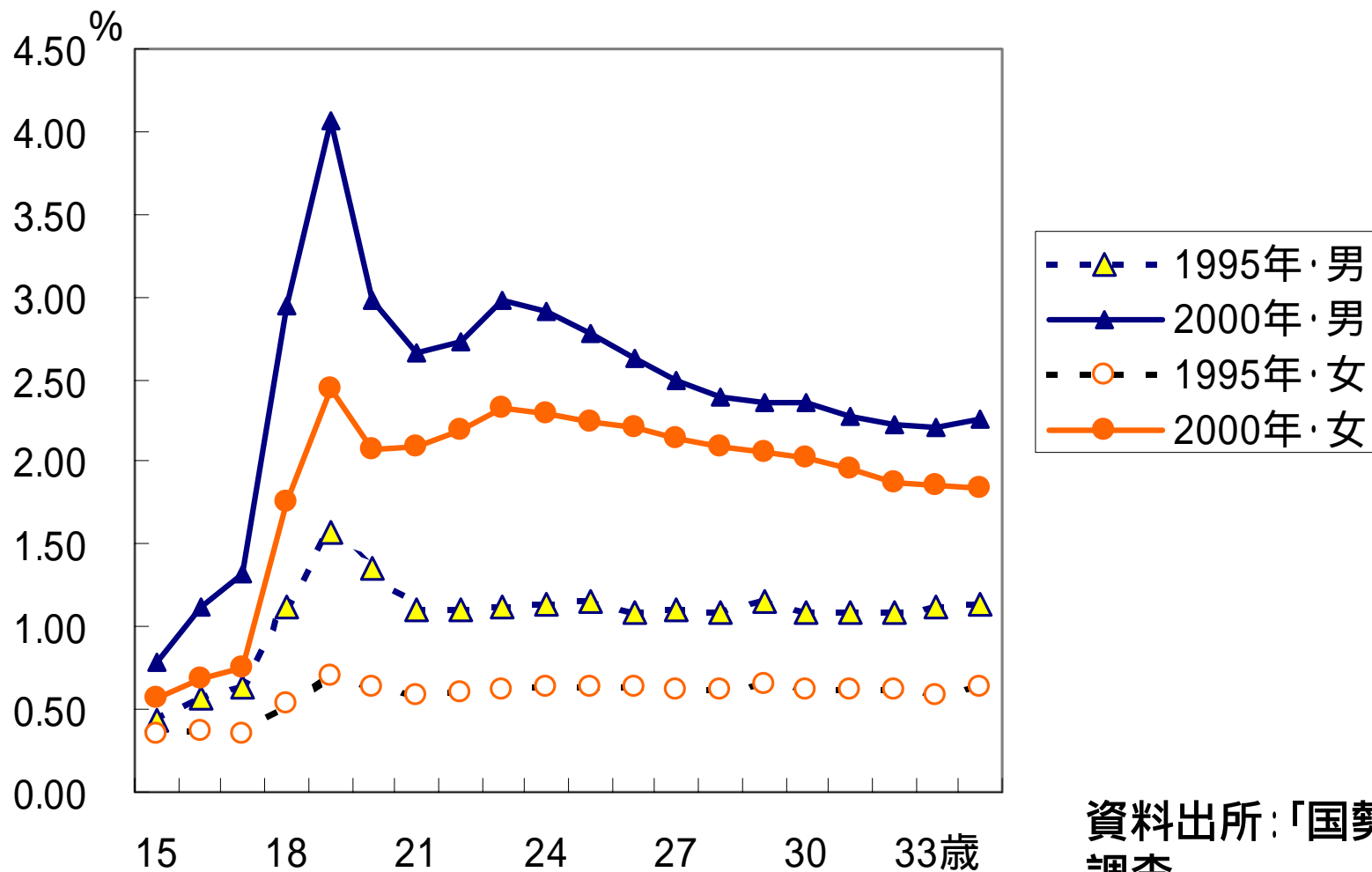
# アルバイト・パート及び非正社員比率(15-24歳)



# 非通学・非家事の非労働力人口、および人口に対する比率(15 34歳)

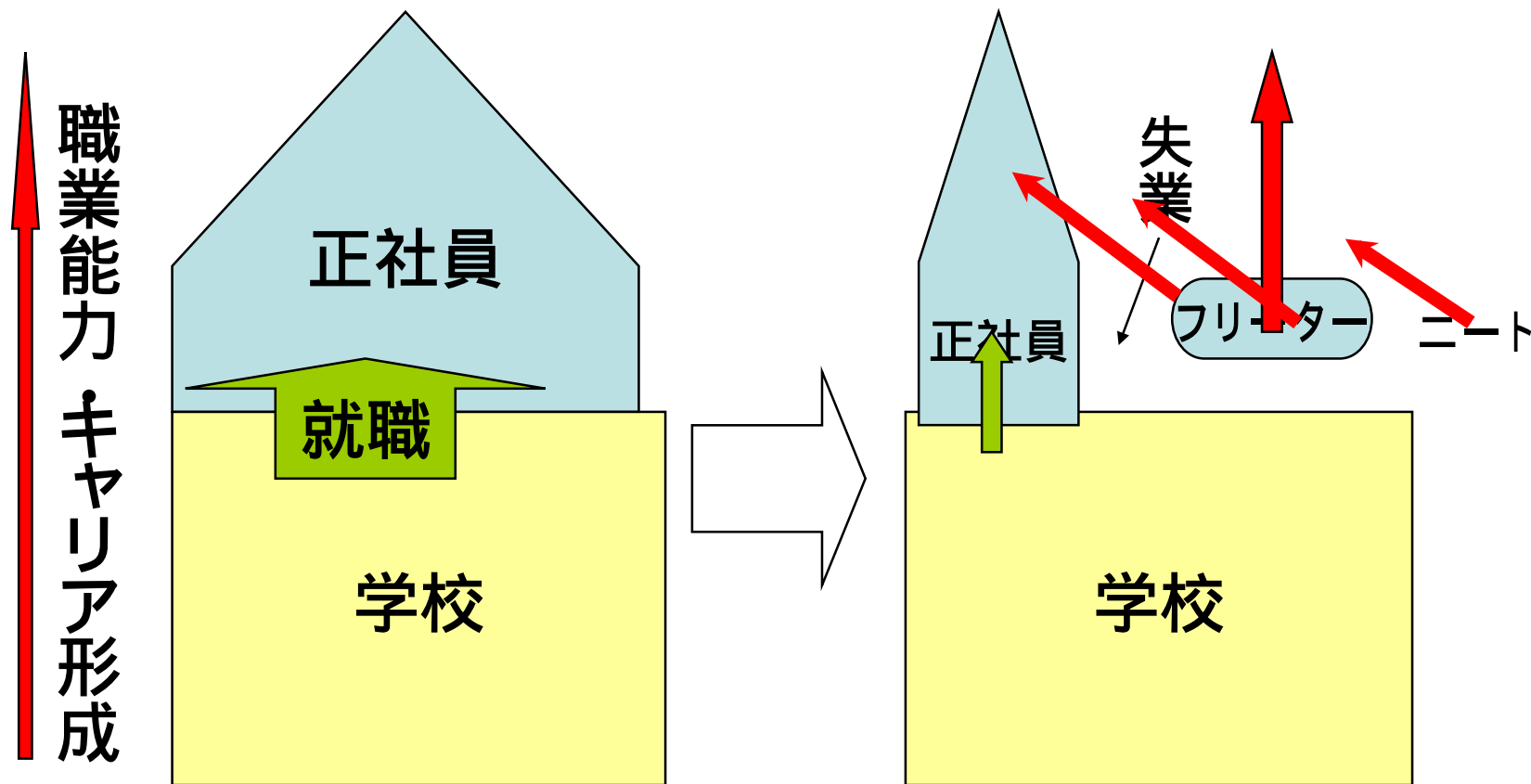


# 非通学・非家事の非労働力(人口に占める比)

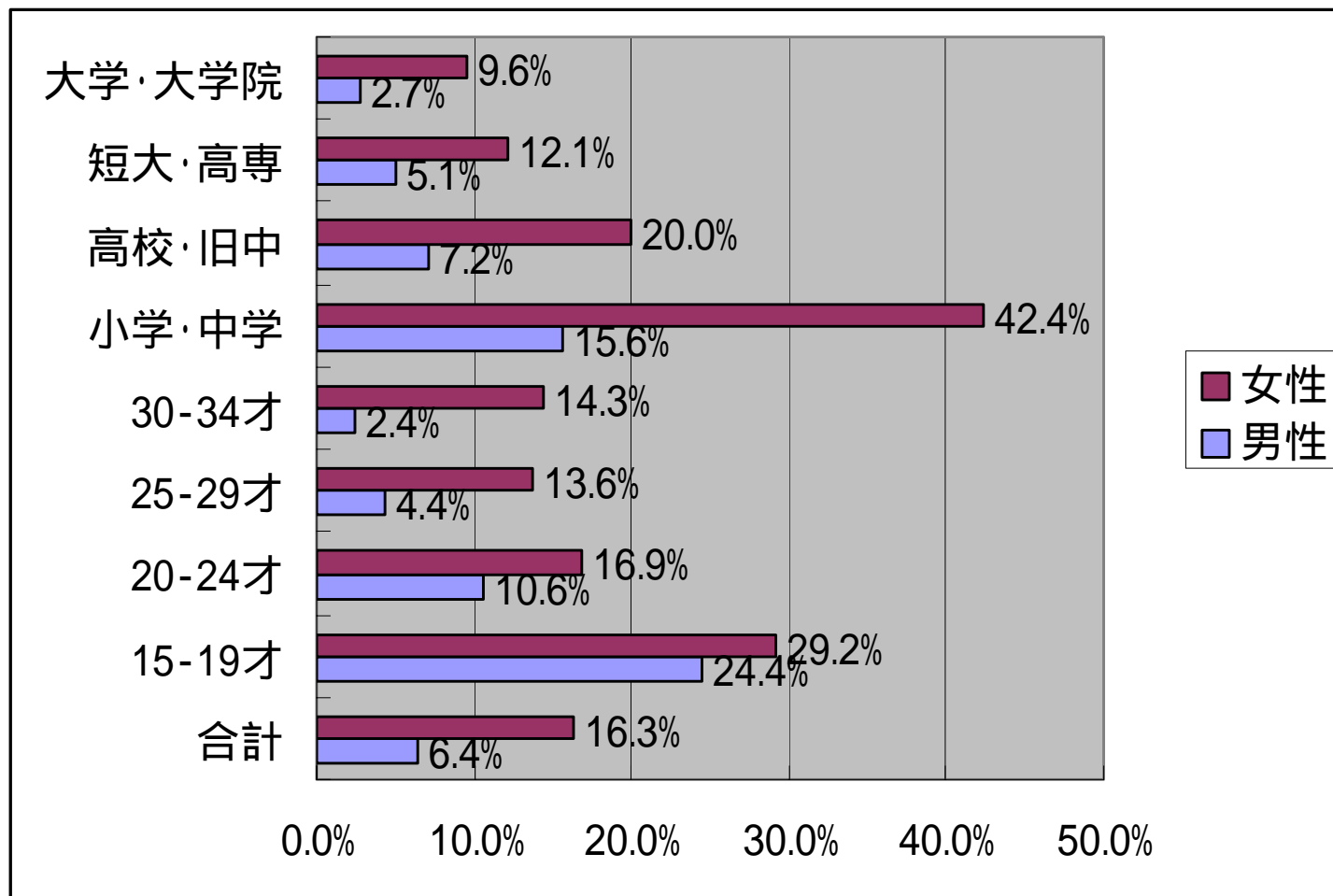


資料出所:「国勢調査」

# 変わる学校から職業への移行

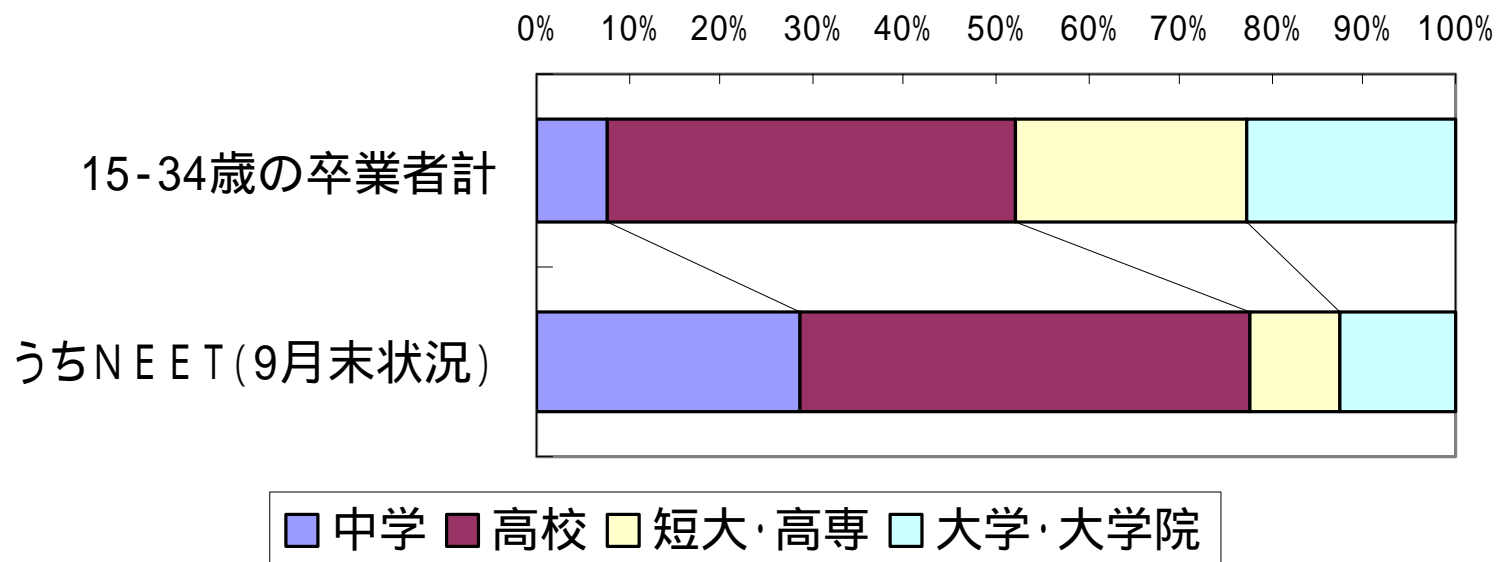


# 学歴・年齢別フリーター率



資料出所:日本労働研究機構(2002)「若者の就業行動に関するデータブックー就業構造基本調査の再分析より」。

# 日本型ニートの学歴分布

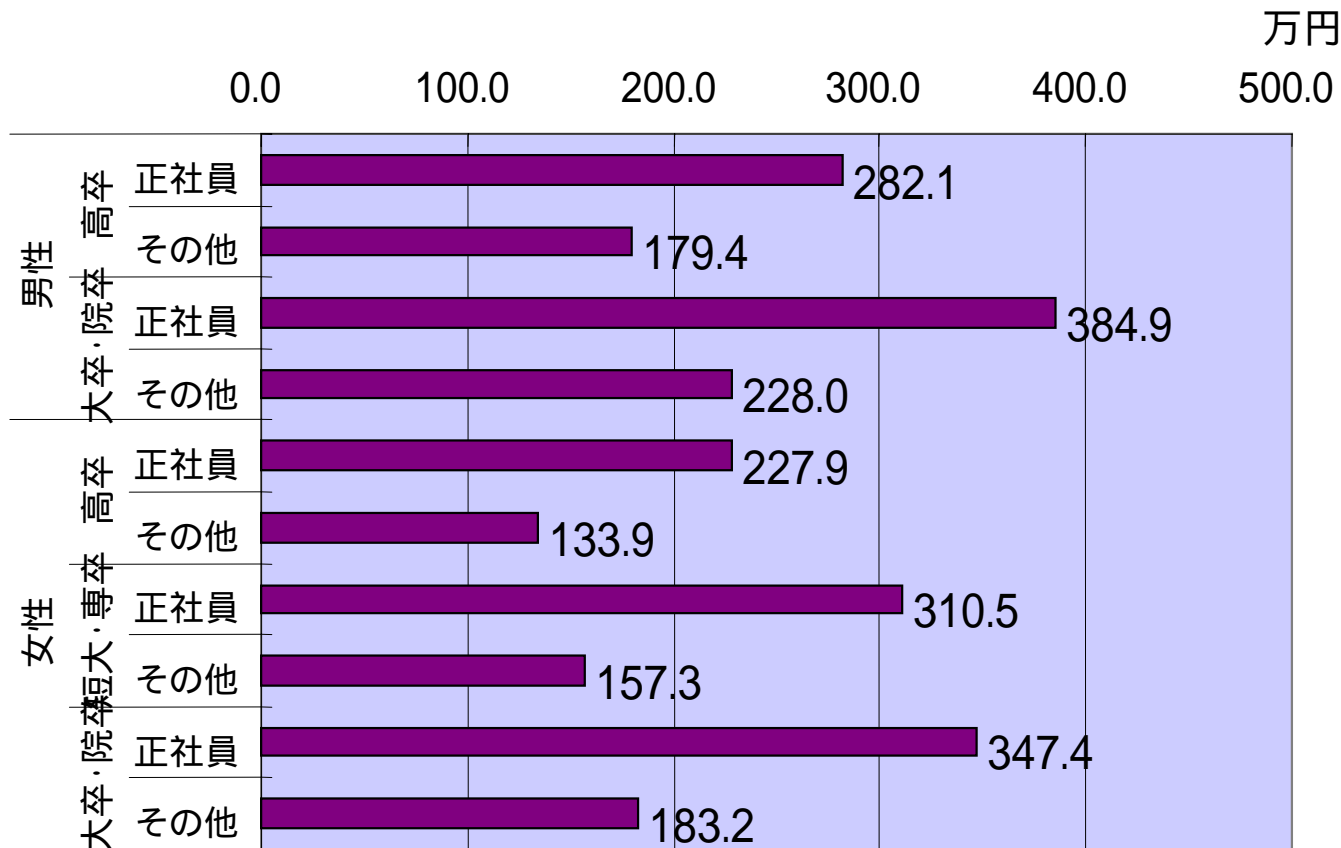


# 失業率(性・年齢・学歴別)

	男性	女性
15～24歳(卒業者)	13.7	10.2
中学・高校	14.9	12.8
短大・高専	10.0	6.7
<b>大学・大学院</b>	<b>13.6</b>	<b>8.8</b>
25～34歳(卒業者)	6.0	6.9
中学・高校	7.3	8.4
短大・高専	5.4	6.1
大学・大学院	3.9	5.0

資料出所:総務省「労働力調査」  
2003年

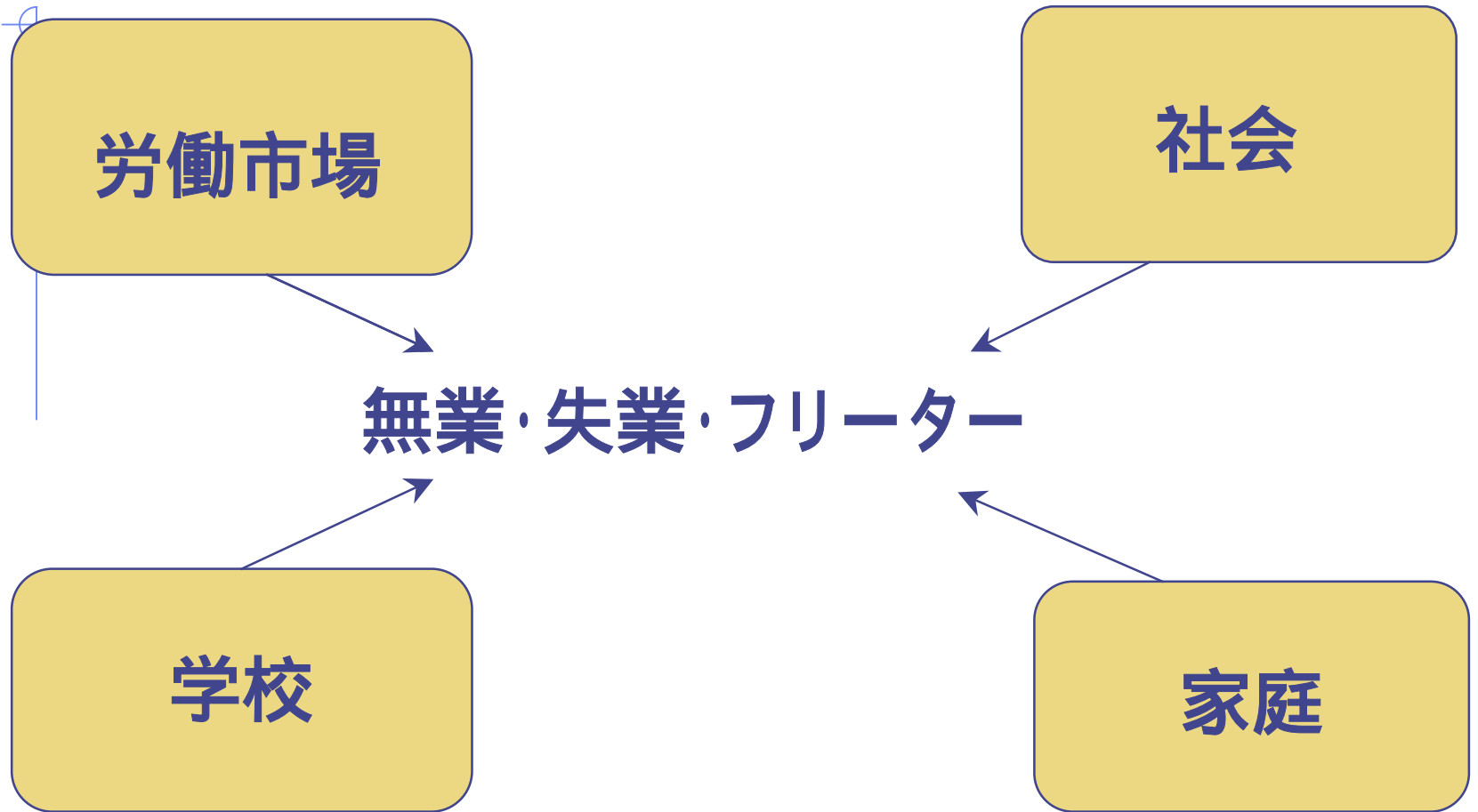
# 正社員とその他雇用者間の平均年収の格差



注：高卒、短大・専卒は20-24歳、大卒は25-29歳。年間就労200日以上、または規則的就労で週15時間以上。

資料出所：日本労働研究機構(2002)「若者の就業行動に関するデータブックー就業構造基本調査の再分析より」作成。

# 職業への移行困難な若者の背景



# 労働市場

**変化**：高付加価値型労働需要

雇用慣行変化・多様化

景気後退（：特に地方経済）

**継続**：新卒一括採用・非典型の格差・

中途採用の限定・

年齢規範＝やり直し不可

# 労働市場

変化:

継続:

就職先:

不本意就職

若手正社員の負担増加

**学校：**

**高校：キャリア教育の欠如**

**低位校：社会化の失敗・意欲形成  
の失敗**

**高等教育：**

**職業的レリバンスのなさ  
キャリア教育の欠如**

社会：

ソーシャルネットワーク：

仲間集団で凝縮し閉じる

離学により縮小し孤立化

職場と地域のネットワークの弱体化

ジェンダー：

キャリア期待ない女性

# 家庭

厳しい家計(都市):

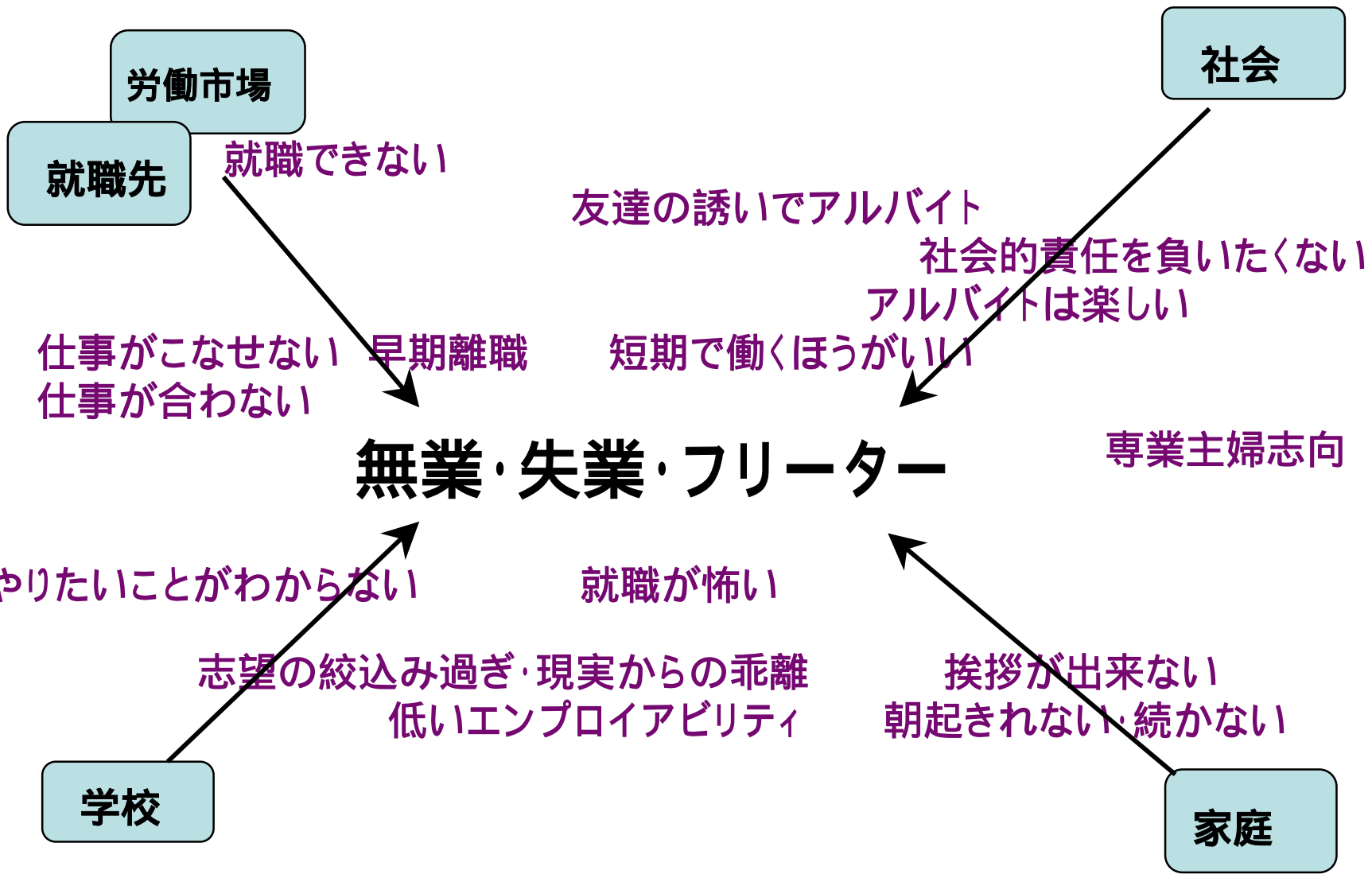
子どもへの無関心・低い期待水準・  
欧米型の社会的排除

地方

少子化の中で地域移動の減少

高学歴家庭: 教育成果への期待大

プレッシャー・自己実現への理解  
パラサイト



労働市場

社会

就職先

就職できない

友達の誘いでアルバイト

社会的責任を負いたくない

アルバイトは楽しい

仕事がこなせない  
仕事が合わない  
早期離職

短期で働くほうがいい

無業・失業・フリーター

専業主婦志向

やりたいことがわからない

就職が怖い

志望の絞込み過ぎ・現実からの乖離  
低いエンプロイアビリティ

挨拶が出来ない  
朝起きれない・続かない

学校

家庭

## ● 刹那を生きる

中等教育卒や中退、学業不振・遅刻が多い。学校は友達に会う場所。親も非典型雇用が多く家計は豊かでない。高校時代からアルバイト遊ぶ金を稼ぐ。同世代同地域の友人との世界が居場所。職業的将来に期待は持っていない。朝起きれないなど、生活習慣レベルでの課題も抱えている。

## ● つながりを失う

早い学校段階で、友人関係のつまづきなど様々な理由から離学する。高等教育や就職後のこともある。ソーシャルネットワークが切れ、孤立化していくことが多く、職業への移行の前に、社会的関係の構築が課題となる。

## ● 立ちすくむ

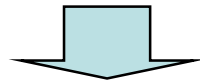
高等教育卒業段階で、いったん就職活動はするがキャリアの方向付けが出来ず、限定的な就職活動で終わる。親の養育態度は教育達成に関心を持ち、自己実現志向にも理解があることが多い。暮らし向きは普通。大学進学時にも職業的自覚はなかった。就職できないことを親に申し訳ないと思っている。

## ● 自信を失う

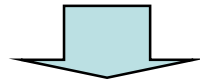
学卒時に就職するが、早期に離職し無業やアルバイトで過ごしている。与えられた仕事を十分こなせず、仕事が合わないと離職した。クビに近い形あることも少なくない。労働条件も相対的に悪いケースが多い。精神的にも疲れている状態。次ぎの仕事はじっくり探したい。

# 若者のキャリア形成への支援

- (1) < 新卒就職 安定雇用 能力開発 好業績 >  
の日本型モデルの後退
- (2) 移行困難な若者は、多様な時期に多面的な背景  
の下に無業化し、かつ、その背景は互いに影響



全体的で、継続的な = ホリスティックな支援



学校でのキャリア教育 + 学校外での支援

# ホリスティックな支援

地域社会が主体となって、  
地元の若者を地域の教育・  
産業界との連携して一人  
前にしていく発想

高校まで  
キャリア教育  
エンプロイアビリティ  
向上

進路選択

高等教育  
キャリア教育  
職業的レリバンス

不登校

中途退学  
学卒無業

アルバイト

就業体験

ボランティア

家庭

支援機関  
(NPO)

支援機関  
(ジョブカフェ等)

個人への継続的支援：中  
退などの個人情報共有  
して総合対処

産業界

その他行政  
機関  
(保健所・警察・  
民生委員…)

非活動的な若者へ  
の対応 = アウトリー  
チ：家庭にまで入り  
込む支援